徳島県立農林水産
総合技術センター

農業研究所百年史

序

徳島県知事　**飯　泉　嘉　門**

このたび徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所は，幾多の変遷を経ながら，100周年の節目の年を迎えることとなりました。当研究所は，明治36年に徳島県農事試験場（現徳島市鮎喰町２丁目）として発足し，昭和32年には徳島県農業試験場と改称され，平成13年度より現在の名称となっております。

この間，藍や養蚕，米をはじめとする食糧の増産，野菜や花きの高品質・安定生産など時代のニーズに即応しながら徳島県農業の技術拠点として幾多の研究成果をあげ，また，技術員養成機関として本県農業の振興に寄与して参ることができました。これもひとえに，農業者をはじめとする多くの関係の皆様方の御協力と御理解の賜であり深く感謝申し上げる次第でございます。

さて，近年，輸入農産物の急増，従事者の減少や高齢化，さらには牛海綿状脳症の発生，食品偽装表示および無登録農薬問題等による消費者の食に対する安全性への意識の高まりなど，農業を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。このような変革の中，本県におきましては，新鮮な農林水産物の供給基地としての地位をさらに強固なものとするため，供給量の拡大と品質の向上を図り付加価値を高める取り組みが必要と考えております。

そこで，産地と消費地の連携いわゆる「産消連携」による新しい「オンリーワン産地の育成」をはじめ，消費者の視点に立った認証制度の構築などによる「食」の安全・安心への取り組みなど，「新鮮とくしまブランド戦略」を進め，徳島ブランドを揺るぎないものへと確立して参りたいと考えております。どうか，県民の皆様方には，本県農業の発展のため，更なる御理解・御協力を，お願い申し上げる次第でございます。

最後になりましたが，この度の百年史の発刊が，今後の研究に活かされ，創造性に満ちた技術開発につながり，ひいては本県農業・農村の振興と県勢の発展に寄与できることを心より祈念いたしまして，発刊に当たっての御挨拶といたします。

平成16年３月

発刊のことば

徳島県立農林水産総合技術センター農業研究所
所　長　美　馬　克　美

明治36年名東郡加茂名村の農商務省農事試験場四国支場跡に徳島県農事試験場が開設されてから今日までに100年の歳月が経過いたしました。

この間，畜産，果樹部門の分離・独立，組織機構の改変，庁舎の改築，分場・試験地の設置や廃止，名西郡石井町への新築移転，農業機械化センター，蚕業技術センターの統合，更には，県内農林水産業に関連する研究機関を統合し，農林水産業の発展を技術面から支える農林水産総合技術センターの設置など幾多の変遷を経る一方，幾度かの事変や戦争，地震等の天災に遭遇し，社会，経済の大きな波に揺られながらも，終始一貫して地道に研究を続けて参りました。

また，技術員養成所，農業講習所，農業大学校の農業，蚕業，特作分校を併設して，農業技術者や農業後継者の育成を進める一方で，普及機関と密接な連携のもと，農家の技術指導にも積極的に当たるなど徳島県農業の発展に努力して参りました。

今，先に発刊されました「徳島県立農業試験場八十年史」を基に往時を振り返ってみますと，西欧や全国各地の篤農家たちが開発・工夫した農作物，農法などを積極的に取り入れ，本県に適するように改良，定着に意欲的に取り組んでいる創設当時の情熱あふれる姿に始まり，変貌するそれぞれの時代の農業情勢に対応し，本県農業を発展させるため，幾多の困難を乗り越え，黙々と研究を続けてきた先人達の100年の歴史の中にある貴重な業績と貢献に対し，深く頭の下がる思いが致します。

時の流れは激しく，今日の日本農業は食のグローバル化に伴い増加の一途をたどる輸入農産物，農業従事者の減少，地球規模での環境保全意識の高まり等厳しい社会，経済環境の中で揺れています。このような情勢を反映して，国は永年農業振興の基本としていた「農業基本法」を改正して，食糧の安定供給の確保，農業生産活動の多面的機能の発揮，農業生産の基盤となる農村の振興等を軸とする「食糧・農業・農村基本法」を制定する一方，科学技術開発の効率化をより一層進めるため，国の研究機関を独立行政法人化するなど体制整備をしたところであります。特に，食糧の安定供給に関連しましては自給率の向上に最大限の努力をするとともに，日本でのＢＳＥ（牛海綿状脳症）の発生，食品の偽装表示，無登録農薬の使用等食品の安全性を脅かす問題が相次いで発生したことから，「食と農の再生プラン」を策定して，失われた食と農に対する国民（特に消費者）の信

頼回復に努めるとしたところです。

こうした変化の激しい時期に私たちは，農業試験場が歩んできた100年の歴史を振り返り，先人達がなし遂げた偉大な業績を基礎として，21世紀の徳島県農業発展の一翼を担う試験研究が今後進むべき道を探るため，農業試験場八十年史を基本とする新たな史誌の編纂を進めて参りました。

編纂の経緯と経過は「編集後記」に詳しく述べられているところですが，資料の調査，執筆，編集は百周年記念誌発行委員会が中心となって進めてまいりました。しかし，組織再編直後であることに加え，多忙な日常業務の上に馴れない仕事とあってその苦労は並大抵のものではなかったと思われます。その努力が稔りここに「農業研究所百年史」が発行できましたことは職員一同とともに大きな喜びであり，この百年史が今後の徳島県農業発展の一助となれば幸いと思います。

最後に，本史誌編纂に当たり，貴重な資料を提供され，また助言や励ましを頂いた各位に対し深甚なる謝意を表するとともに，多忙な業務の中を精魂を傾けて資料の収集，執筆，編集に当たられた職員に対し心からその労をねぎらい深く感謝するところです。

平成16年３月

庁舎の移り変わり

■ 鮎喰町時代の本場 ■

創立当時からの本館正門（昭和２年）

本　　館（同左）

南側から見た全景（昭和２年）

改築後の本館正門と本館（昭和45年）

本　　館

本 館 南 側

南側から見た全景

本館南西側（左は作物科）

作業室と作業広場（昭和45年）

庶務係，場長室と裏庭（昭和43年）

農業機械研修館（昭和38年）

病虫科ガラス室（昭和39年）

構内に併設されていた「緑の家」（昭和43年）

農業講習所寄宿舎（昭和24年）

農業講習所教室（昭和20年）

農業講習所視聴覚教室（昭和36年）

■ 現 在 の 本 所 ■

南からみた全景

本　館

前　庭

■ 本所の施設 ■

ライシメータ

作　業　舎

バイオテクノロジー研究棟

バイテク棟実験室

同クリーンルーム

ハウス群

同培養室

トマト養液栽培施設

徳島農研方式イチゴ高設栽培施設

世代短縮温室

同　内　部

土壌水分管理実験温室

同　内　部

人工気象室

砂　地　畑

気象観測施設

本館ロビー

開放型の農薬残留分析施設（オープンラボ）

■　各分場・試験地の昔と今　■

池田分場本館（昭和55年）

作業舎（昭和55年）

本館南面（昭和55年）

池田分場第２圃場の茶畑（昭和55年）

現在の中山間担当（池田分場）

南からの全景

夏秋イチゴ栽培ハウス

環境制御ボックス

病害虫担当・病害虫防除所（鴨島分場）

昆虫飼育室（左）と作業舎（右）

病害虫担当の試験圃場とハウス群

海南分場設立当時の本館（昭和32年）

現在の県南暖地担当海南園芸（海南分場）

県南暖地担当海南園芸の圃場とハウス群

キュウリ栽培ハウス

阿南筍試験地（昭和55年）

現在の県南暖地担当阿南園芸（阿南筍試験地）

試験用竹園

阿波原種農場

富岡分場の前景（昭和30年頃）

廃止前の富岡分場（昭和43年）

設立当時の藍住分場本館（昭和30年）

東側から見た藍住分場本館（同年）